

国際天然ガス情勢の展望

<報告要旨>

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
化石エネルギー・国際協力ユニット ガスグループマネージャー
研究主幹 小林 良和

2018-19 年の国際 LNG 需給の展望

1. 2019 年にかけての国際 LNG 市場においては、供給能力の伸びが需要の伸びを上回る状態が続き、全体的な需給バランスは緩和した状態が続く。しかし、2017 年における中国を中心とした急速な需要の伸びにより、現在の需給緩和状態が「リバランス」に向かい、さらには逼迫状態へと転換する時期に対する関心が高まってきている。
2. 2018 年通年の世界の LNG 需要の増加は、前年比で 1,850 万トン、供給能力の伸びは前年比で 2,840 万トンと予測する。また 2019 年は、需要の伸びが 2,220 万トンになるの対し、供給能力の伸びは 3,060 万トンと予測する。
3. 日本向けの LNG 供給は、依然として原油価格リンクの価格で取引されるものが多い。このため、全体的な LNG 需給の緩和にも関わらず、日本向けの LNG 輸入価格は、今後の原油価格の動向を反映して、2018 年下半年は 11.3 ドル/mmbtu、2019 年通年は 10.9 ドル/mmbtu になると予測する（2018 年 1～5 月の実績は 9.9 ドル/mmbtu）。北東アジアにおけるスポット価格は、今後も大きく変動することが予想されるが、2018 年下半年および 2019 年通年の平均価格は、8～9 ドル/mmbtu 程度になると予測する。

需要面での注目点

4. 世界の LNG 需要の拡大は今後も続く。中でも中国では、2017 年に前年比 1,159 万トン増（伸び率で+42%）という極めて高い需要の伸びが見られた。2018 年に入ってからのもも高い伸びを示しており、本見通しでは、中国の LNG 需要は、2018 年が前年比 900 万トン増加の 4,800 万トン程度、2019 年が同 700 万トン増加の 5,500 万トン程度と予測する。
5. 2017 年の中国における LNG 需要急増の主要因となったのが中国政府による大気汚染対策である。特に 2017 年は、2013 年から始められた 5 年間の大気汚染対策期間の最終年であったことから、いわば駆け込み的な石炭からの

転換需要が生まれ、結果として LNG 輸入の急増が生じた。この中国政府による大気汚染対策は、2019 年にかけても続けられるため、引き続き LNG 需要を増加させる要因となる。

6. 中国の LNG 需要には、マクロ経済の動向も大きな影響を及ぼす。2017 年は、同年 10 月に開催された中国共産党大会に向けて、中国政府によって積極的な景気刺激対策が行われたことが、エネルギー需要全体の増加をもたらした。LNG 需要増加の一因となったが、2018 年以降は、そうした景気刺激策による需要増幅効果は後退する。むしろ今後は、米国との貿易戦争が中国経済に負の影響をもたらすことがあれば、LNG 需要を減速させる要因となる。
7. 世界の LNG 市場の規模が拡大する中、需要の季節変動幅の増大も無視できない問題となっている。今後も年間を通してみれば供給能力が需要を大きく上回る状況が続くものの、需要がピークを迎える冬季に向けて、一時的にスポット市場の需給がひっ迫化し、スポット価格が上昇するケースが見られる可能性も残る。仕向地条項撤廃等を通して季節変動をある程度吸収できる流動性の高いスポット市場を早急に創設する必要があるが出てきている。

供給面での注目点

8. 2014 年後半以降の原油価格の低迷によって、新規液化能力に対する最終投資決定 (FID) が停滞していたが、今年 5 月には、米国で Corpus Christi プロジェクトの第 3 トレインに対する FID がなされ、またこの他にもモザンビークの Area-1 やカナダの LNG Canada などについても FID 実現に向けた動きが着々と進められている。油価上昇に伴う LNG 価格の上昇や上流開発会社の財務体質の改善、最近の LNG 需要の拡大が、こうした FID 実施に向けた機運を醸成する効果をもたらしている。投資の停滞による供給不足を発生を回避し、安定的な需給バランスを中長期的に確保する上で、2018 年から 2019 年にかけての FID の実施は極めて大きな意味を持つ。2019 年にかけて複数の FID が実現することが大いに期待される。

以上